

井の中の

第8期OB 黒沢 祐介

その定義は未だによくわからないのですがいわゆる「社会人」というやつになってから、けっこうな時間が経ちました。たばこ会社という、日本では斜陽気味（と思われる）産業に召されてから、はや八ヶ月が経とうとしております。いま僕がやってる仕事は、「かっこいい仕事してるんだね!」という誤解を招くように大げさに言えば、企画部という部署で、支店の戦略の方向性を決めるためのデータ分析をしております。誤解を招かぬように言えば、日々の売上データを蓄積しておくとか、今年度の施策情報をまとめておくとか、あとは忘年会の幹事をするとか、上司がカラオケで歌ってる時に全力で合いの手いれるとか、新人らしい仕事です。



会社同期との忘年会（著者は左奥）

以下、「社会人」と呼ばれるものになってから感じたことを書きます。

1つ目は、自分の知識の少なさです。「知らない」ことが非常に多い。入社1年目なのだから当たり前ですが。大学時代は、マーケティングに関する知識はそこそこあって、マーケティングの単語を聞けば、

それに紐づく単語が1つか2つは思いついて、それを基に新しい考えを巡らせることが好きだった自分にとっては、自分の知識が足りないというのはとても苦痛です。(ちなみに、後輩の論文の中間発表は、偉そうに踏ん返り返って喋れたからとても好きでした。)この文章を書きながらも、ああ早くこの井戸から脱出したいなんて思っています。

2つ目は、なにかを深く考える時間が減ったなあということ。4年生の時は、たくさん時間があった。同期や大学院生と酒を飲みに行ったり、パソコンいじってアニメを見たり、好きなだけ寝ても、まだ時間があったので、最近じぶんの身の回りで起きたことについて頭で反芻して、ぼんやりと考え事していたのですけど。今も時間がないわけじゃないのですが、というか時間がないのはじぶんの怠惰が原因なのですが、考え事をする時間が減ってからというもの、急速に頭が腐っていつている気がします。空の深さだけは忘れたくないので、2013年はなにかしらの努力をしようと思います。



高校同級生との初詣 (著者は中央)